

平成29年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議

第1回 認知症支援・介護予防・活躍推進に関する会議 会議録

1 開催日時

平成29年6月28日（水）18:30～20:00

2 開催場所

認知症支援・介護予防センター 交流ルーム

3 出席者等

(1) 構成員

井手構成員、伊藤構成員、江藤構成員、重藤構成員、田代構成員、田村構成員、長江構成員、永野構成員、野村構成員、原田構成員、宮本構成員、村岡構成員、力久構成員

(2) 事務局

地域福祉部長、精神保健担当部長、長寿社会対策課長、認知症支援・介護予防センター所長、地域福祉推進課長、地域支援担当課長、介護保険課長、健康推進課長、食育・栄養改善担当課長

4 会議内容

- (1) 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議の運営について
- (2) 代表、副代表の選任について
- (3) 次期高齢者支援計画について
- (4) 次期北九州市高齢者支援計画策定に向けた論点整理

5 会議経過及び発言内容

(1) 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議の運営について

資料1に基づき事務局より説明。

意見質問なし。

(2) 代表、副代表の選任について

構成員の互選により、伊藤構成員を代表に、長森構成員を副代表に選出。

(3) 次期高齢者支援計画について

資料2に基づき事務局より説明。

意見質問なし。

(4) 次期北九州市高齢者支援計画策定に向けた論点整理

資料3～資料7に基づき事務局より説明。

代表構成員

幅広い範囲について説明があったが、今回は、今の説明に関する内容や今後このようなことについて検討してほしいなど、自由に発言してほしい。

構 成 員

検討内容のところにも書かれているが、地域の方が自分たちで運営するために、専門職である私たちがどのように関わっていけるのだろうか、どのような仕組みづくりができるのかということが、メインの課題だと思う。

通所型介護では、機能が回復して、生活が整ったら、卒業して地域の中で生きていくということが求められているが、地域のなかで受け入れ態勢が整っておらず不十分な現状があり、もうずっと何年も通所に通ってくる方が多い。

また、働きたい方、地域貢献したい方が増えているというデータがあったので、具体的なコンテンツづくりをこれから一緒にできればいいと思う。

母も丁度団塊の世代で、就労にも意欲的であるが、中々自分の能力が活かせないというようなこともでてきている。地域の中に受け入れ体制が整ってくると、総活躍の仕組みができるのではないかと。

構 成 員

この様な計画を作るときに、今ある人材や、今ある所属の特性だけではなく、新しく開発する人材も考慮したほうが良いと考えている。

たとえば、今ある人材として、民生委員・児童委員や福祉協力員がいるが、地域にある人材はそれだけではない。これは、地域を開発しきれていないと思う。どうやって自分たちが支える側になるのか。支えたり、支えられたりするということを、自覚していない9割の人々を、どのように社会作りの中に参加してもらうのかという視点で、固定観念なくユニークな仕組みがあるのではないかと。

この「カフェ・オレンジ」において、全ての解決策は、他分野の方たちの連携でしか起こってこないという実感を持っている。

その他分野の人たちが、専門職であるとか、市民であるとかそういった括りではなく、様々な他分野の方たちが、連携する仕組みを次の年度の計画に提案できていなければ、地域を支える仕組みが作れないのではないかと。

構 成 員

地域貢献活動については、やはり自治会の衰退を見直さなければならないのではないかと。

私が住んでいるところは、マンションやアパートで若い世代は増えてきてはいるが、自治会にまったく入っていない。その自治会のメンバーは、高齢化しており、そこで何かを自分の生きがいにもついでいこうとしても、それを支える人もいない。また、高齢者が若い人を引っ張って行きたいと思っても、そういう若い人もいないから、仕組みとして悪循環が起きているように感じる。

地域性はあると思うが、マンション・アパートが非常に多いところでは、そういった活動ができにくくなっているのではないかと。

そして、世代をつなぐ若い人がいないため、自治会が衰退してしまっているのではないかと。

今の高齢者は、自分ひとりだけで受講できるような行事の場合は、自分から受ける等、健康意識は高いが、自分から何かをしようとしても一人ではできない。

構 成 員

地域のサロンにおいて、健康づくり推進員や食生活改善推進員などで、がんばっている方は女性の方が多いように感じる、

摂食嚥下などの話をするが、旦那さんがよくむせるが、その旦那さんは来ず、奥様はますます元気になっていく。

自治会でも、班長などとして動くのは女性ばかりになっている。
個々のサロンにしても、高齢者に女性が多いということも分かるが、女性の方がほとんどで、男性は何処に行ったのかわからない。
その男性をターゲットにするのも一つの方法ではないかと思う。

構 成 員

老人会も後期高齢者が多く、年をとってきて亡くなってしまう。団塊の世代というが、年金が遅くなってしまうので、働き続ける人が多い。老人会に中々入ってくれる人がいない。
奥さんが入っても旦那さんは入らない。老人会では地区によって会費が違うので、私たちは少しの割引で、旦那さんにも出してもらうような工夫をしている。

構 成 員

健康運動指導士ということで、実際に何年も地域で運動指導している。
専門職が関わるのもある程度限度があり、またその裾野をひろげて行くためには、地域の方々に活躍していただかないといけない。
そのため、地域には運動推進員といった方は結構いるが、それをもう一步踏み込んだ方々がまだいないということで、近隣の市町村で一定の体操を決めてみんなでやっという取り組みを行っている。体操を行う中心人物は、ボランティアの方で、私たちが指導している。そこまですると、すごく負担が多いということで、自分から手を上げてくる方はほとんどいない。
そこで、各区の自治会の代表に集ってもらい、行政のほうから声かけをする中で、手を挙げてくれるのはほとんど男性であった。自治会の代表の方は男性が多く、そこに説明すると、何人か勉強にくる。今では活動し始めている地域もある。
もうちょっと、一歩入り込んだところまで行かないと、中々地域の方も動きが難しいのではないかと考えている。

構 成 員

興味深い事例が3例あったので紹介する。
1例目は、カフェマスターさんは93名いるが、やはり女性が多く、その中で少ない男性の方たちがいらっしやると、通りかかった方から入りやすかったという意見が広がり、男性だけの「倶楽部オレン“G”」の会というものをつくった。
まだ2回くらいしかやっていないが、どんどん増えている。皆行く場所を求めており、これは発展系になるのではないかと考えている。
2例目は、男性が地域の自治会等の役員に多いという話であるが、自治会活動は、女性が支えているというのが、皆様方の共通認識であると思う。
ところが、地域のサロン（住民主体）で自立するところが少ないとお伺いしたが、自立しているところを見ると、女性が一所懸命頑張って表に立っているが、それを下支えしているのは男性。男性がいるところは、サロンがとても活発で、方向性が見えており、とても良いと思う。
ところが出てくるのは、女性が多く、男性が少ない。しかし、男性がいるから、少しずつ男性も増えているという循環。これから男性が少しずつ増えていくには、こうした会を支えていく必要があると思う。
最後は、力の要る深刻な話と思う。男性は何十年も働いて、急にステージが変わる。これから社会貢献や次のステージを生きていくためのノウハウがない。これは、働いている時から準備を進めることが必要だと思うが、そうした仕組みがない。また、そうした男性たちに寄り添って次のステージに支援していくという仕組みもない。
特に一般化する話ではないが、比較的大きな会社に勤めになっていた方は、次に自分が何

をしていけば良いのか分からない、ということが往々にしてある。

今後、愉快地明るく発展させるするには、こうした男性たちに、次のステージを見つけていくという仕組みをつくり、その中でお金を稼ぐとか、働くとか、2番目の経済を考える必要があると思っている。

構 成 員

地域活動に参加していないというのが、何かそれで、特典を付けてあげるとか、介護支援ボランティアのような制度の周知を徹底していけば、もっと集まるのではないかと思う。アピールが重要であると思う。

構 成 員

周望学舎では年間15コースあり、その中で、健康づくりサポーターコースでは、地域の中で健康づくりを実際に進めていく人を作るという内容を用意している。今年は、進んでいる市民センターを訪問し、勉強しながら、実際にそこの地域に出て行くという取組みを始めている。

また、15コース全てに地域の授業を持ち、今年は、自分の居場所づくりをテーマに話をしてもらっている。そうした人の中から、地域の中に、一歩ずつ踏み出してくれたら、うれしく思う。それから、サロンづくりの講義をした方に、男性が来ないのであれば、いっそのことメンズサロンをつくってはどうかという意見をもらった。実際に男性限定のサロン（女性も手伝いに来てよい）をしているが、そこは行きやすいと、かなり好評と聞いている。男性が行きやすいメニューも用意することが大事なのではと思う。

構 成 員

今、男性、女性の話がでたので、気になることがある。そもそも、男性・女性は生態学的に違う生き物なので、女性が集まっているところに男性が行くというのは、行きにくいというのが事実だと思う。

私は自費でフィットネスジムをしているが、やはり女性が多い。それから若松で、「くらしの保健室」を行っているが、基本的には女性が多い。草むしりを手伝って欲しいとか、庭の池を埋めるので手伝って欲しいとか、男性の特性を活かした声のかけ方をすると男性は来る。

健康という視点に立ったときに、メンズヘルス、ウィメンズヘルスと分かれるように、そもそもの健康感が違う。同じメニューを立てても、おそらく女性は活かしても、男性は活かさないということが往々にしてあると思う。

いわゆる、男性と女性を違う視点で見て、それぞれの特性を活かせるようなプランを立てていかないと、意識が高いとかハードルが低い例外的な男性を除いて、いつまでたってもサロンに参加するというような、発展的に何か形にしようと思った時に、なかなか伸びてこないのは、おそらく事実だと思う。

もう一点、子育て支援の推進員をしているが、「倶楽部オレン“G”」の会と同じように、「イクジイ」を育てている。「イクジイ」を育てても、フォローアップする体制がない。たくさん育てはいるが、そのお爺さんたちが、子育てをした経験がないので、女性がいると女性には勝てない。やはり、フォローアップがないと「イクジイ」も活躍できない。

人材としてたくさんあって、色んなプランもあると思うが、そもそもの女性の特性と男性の特性をよく理解した上で、健康感も予防も生活支援も考えていかないと、女性に対して立てたプラン、又は、女性目線で立てたプランに、男性に参加を呼びかけるよりは、男性の特性を理解した上でプランを考えた方が良く思う。

構 成 員

男性が地域で活動するという事は、働いている時から地域に出て行くというような機会が必要。企業や市役所の方から始め、長い展望だと思うが、まず市役所の人から休暇に地域活動をするというようところが、高齢者になっても地域で活動するということに繋がると思う。

夢追塾とか、社会貢献、地域貢献しようと思う方々と地域のボランティアや様々なボランティア団体があると思うが、マッチングさせるような企画があればと思う。

地域の中で男性が何かを教えるなど、仕事や今まで活動してきた内容など、得意なことを地域の中で教えるという場があれば、男性がもっと出てくると思う。

市民センターに色々な講座があるが、市民センターの中の講座にもっと男性が入っていけるような講座を増やして、市民センターに男性が集まるようになれば、そこでつながりができるのではと思う。

構 成 員

男性は働くことに命をかけているので、企業がもっと定年の年齢を上げるなどを考えていけないといけない。わが社は73歳が定年であるが、働き方も年齢にあった無理のない形にしている。技術を持った方の力を借りて商売をしているので、その技術を若い人につなげていくという仕事もある。

自分の技を伸ばすために切磋琢磨する従業員の方を思うと、働いていることが男性としては一番かなと思う。もちろんわが社は、女性も多い職場ではあるので、おばちゃん力も発揮されて、とても上手くいっている。

企業の定年体制に「アクティブエイジング制度」というのがある。定年を上げていくように、商工会議所なり様々なところへ、アピールしていかないといけないと思っている。

シルバー人材センターにもお世話になっているが、シルバーが会社に来て、馴染むことができるのは、年配の方が、現にそこで仕事をしているからだと思う。

20代の若い世代も多いが、年代が積み重なったところで、仕事をしているので、寛容なところがある。

そのような、働き方のススを企業にも声をかけていかないといけないと思う、それから先のことは、皆さんも考えてくだされば良いと思う。

就業中に、次のステップを考えておくこと事が重要だと聞き、定年が本当に近くなってきたら、そのような情報を企業が従業員に流していくというツールを作っていけば、面白いのではないかと思う。

もう一件、80代の母が老人クラブという名前が嫌だから参加しないとっている。名前をアクティブクラブとか、そのようにしておかないと参加し難いのではないかと思う。

構 成 員

生きがい活動ステーションでも、皆さんに参加して欲しいと思うが、男性の参加は奥様に嫌々連れて来られた旦那さんが多く、アンケートを見ても、全く興味がなかったとか、面白くなかったとか、前向きでない意見が目立つ。

それに比べて、夢追塾に入る方で、自分から率先して来て、仲間ができたのが良かったというような意見もあり、卒業する時には、顔の表情も柔らかく温和になってから卒塾となる。

北九州市はPRが下手と良く言われる。夢追塾等も一部の人にしか、アナウンスができていないような気がする。是非このような、良い会なので皆さんも入塾していただきたいと思う。